

県外生視点の『津和野百景図』 島根県立津和野高等学校

～現地調査からガイド活動へ～ 2年 阪本孝太郎 松本凜生

1.目的

島根県外（山梨、奈良）出身で津和野高校に在籍している私達は、昨年日本地理学会高校生ポスターセッションで、認定取り消しの危機にあった日本遺産「津和野今昔～百景図を歩く～」について、「津和野」で「同年代」の人が日本遺産について興味・関心がないことが課題の一つだと報告した。「同年代」に『津和野百景図』を知ってもらうことで、自分たちのルーツや文化的背景をより深く理解することで、「地元」津和野の発展や活性化につながると考え、行動した。

2.『津和野百景図』について

『津和野百景図』は津和野藩最後の藩主亀井茲監に仕えていた栗本格斎（栗本里治）が明治・大正時代に、津和野藩内の名所や風俗、食文化など百枚の絵を思い出し描いたもの。「津和野今昔～百景図を歩く～」として日本遺産に登録されている。



【第一回】三本松城 ▶

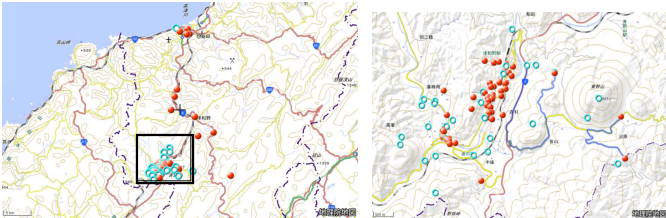
3.仮説

現地調査や日本遺産センターでの学習などを通して『津和野百景図』について理解を深め、中高生向けのガイドなどの活動を実践することで、県外から来ている高校生だけでなく、地元（津和野）の中高生が『津和野百景図』を知り、興味を持つことが実現できる。

4.方法

①百景図に描かれている場所の現地調査

津和野百景図が描かれている実際の場所に行き調査を行った。



●調査地 ○未調査地

（津和野日本遺産センターホームページ（<https://tsuwano100.net/landscaper/>）のgoogleマイマップ→データで保存→「地理院マップシート」で読み込んで書き込み・訂正→kmlファイルとして保存→地理院地図で読込）

問題点

- 1. 津和野町外にも百景図に描かれている場所があるため移動が大変。
- 2. 津和野町以外の百景図は目立つような看板等が無いため分かりづらい。

②津和野百景図ガイドの専門家からの指導

- ・日本遺産をガイドするために知らないといけな情報
↳日本遺産を含めた「津和野というまち」
- ・ガイドの心得
↳日本遺産を知ってもらう
- ・実際にまちに出てガイドをする前に、説明だけでレクチャーしてもらった。



③ボランティアガイド活動のサポート活動

本町通り、殿町通りの2つを巡り、話すタイミングやテンポといったガイドの流れ、人と歩行速度を合わせることを学んだ。

森鷗外通学路コースの例



◀スマホアプリ『地理院地図』で作成

謝辞

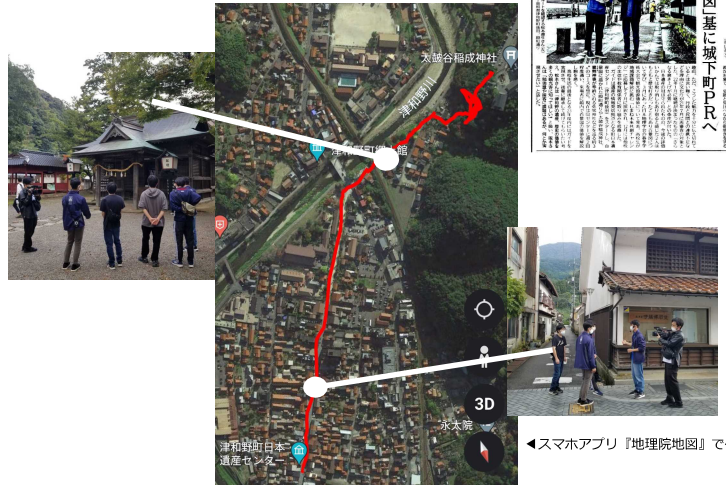
日本遺産センターの清水徳秀氏、永田茂美氏には「津和野百景図」とガイドの方法、ガイド補助としての学習について詳しくご教示いただきました。同センターの木村勝良氏にはセンターのスタッフとして館内業務、仕事とイベント時の参加と手伝いでご指導いただきました。津和野高校の阿部志朗先生には活動の進行で助言をいただき、現地調査の移動でお世話になりました。お礼申し上げます。

参考文献・URL

- 栗本格斎（1917）『津和野百景図』
- 日本遺産 津和野今昔～百景図を歩く <https://tsuwano100.net>
- 防災リテラシー研究所 マイマップを地理院地図に表示 <http://bosailiteracy.org/literacy/mymap/link-to-googlemap-4/export-to-gsi>

④津和野高校生に向けたガイドの実践

日本遺産センターを出発して町内のガイドを行った。殿町通り、本町通り、青野山、藩校養老館、弥栄神社、太鼓谷稲成神社を案内した。



◀スマホアプリ『地理院地図』で作成

⑤城山新コースの調査（廃道の探検）

津和野城を歩くコースはリフトを使った折り返しでは物足りず、中国自然歩道を利用した周回コースは5km以上あるので時間がかかる。そこで昔のガイドマップに載っていた城山の廃道を実際に探しに行った。津和野の歴史に興味を持った高校生も一緒に行った。1970年代に販売されていたペプシコーラの瓶を発見！ 半世紀前には実際に使われていたことが分かった。道は荒れていて、今は使用し難い。



◀スマホアプリ『地理院地図』で作成

5. 検証

現地調査や日本遺産センターでの学習などを通して、『津和野百景図』についてより理解を深めることができた。

その学びを生かし、高校生向けのガイドなどの活動を実践してみた結果、『津和野百景図』を知り、津和野の歴史に興味を持つ高校生が現れた。

以上のことから、現地調査や『津和野百景図』の学習で理解を深め、高校生に向けてガイドをすることで、「地元」の高校生に『津和野百景図』を知ってもらい、興味を持ってもらうことは実現できることが分かった。

これを積み重ねることで、「地元」の高校生が大人になっても『津和野百景図』を伝えていく活動をしていくことを願う。

6. 今後の課題

津和野百景図に関連する歴史や文化の学習の深化、新しいガイドコースの設定、地元中学生対象のツアーの実施などに取り組んでいきたい。